



100年の はじまりを担ぐ。

神輿団体「一二三會」 団体説明資料

これは、単なる祭りの一環ではなく、次の時代の文化をつくる神輿ムーブメント。

一二三會 (ひふみかい) は 次の時代の文化をつくる 神輿ムーブメントです。

一二三會は、青森県十和田市を拠点に2025年に始動した神輿団体です。
コンセプトは「**100年のはじまりを担ぐ**」。
神輿を、形・価値観・仕組みを束ねた“地域文化プロダクト”として捉え、
地域に新しい憧れと挑戦の文化をつくることを目指しています。



01 / WHAT

100年のはじまりを担ぐ

神輿団体・神輿プロジェクトとして、青森県十和田市を拠点に活動

02 / WHY

挑戦と応援の文化を

巻き込まれる側ではなく、巻き込む側になるための文化づくり

03 / HOW

地域の仲間と本気で

神輿・法被・ロゴ・展示・記録、すべて地域の作り手と協働

04 / TO YOU

一緒に担ぐ仲間を

支援は寄付ではなく、未来の文化を共につくる行為

団体概要

ABOUT THE ORGANIZATION

NAME	一二三會（ひふみかい）
FOUNDED	2025年
BASE	青森県十和田市
CONCEPT	100年のはじまりを担ぐ
CO-FOUNDERS	村岡 将利（株式会社ビーコース 代表取締役） 渡部 良平（株式会社WAA 代表取締役）
ACTIVITY	神輿制作・祭り参加・展示・地域イベント・文化継承・発信活動
AFFILIATION	十和田市神輿連合会／青森県神輿連合会
INSTAGRAM	@hifumi.kai



一二三會

HIFUMI - KAI

巻き込まれる側 じゃなく、 巻き込む側になる。

地域課題を解決しようと最初から考えたわけではありません。
「自分たちで神輿をつくったら、絶対おもしろい」——その本気のやりたいことが出発点。
誰かのつくった流れに乗るだけじゃなく、自分たちで新しい流れをつくっていい。
今ある文化も、最初は誰かの「やってみたい」から始まったはずだから。



私たちの挑戦は、 逆風のなか に立っている

私たちは、祭りや神輿の課題を解決するために発足したわけではありません。ただ、自分たちの想いを神輿という形にしようとしたとき、日本の祭り文化を取り巻く状況は、想像以上に厳しい局面に入っていました。

DATA 01 / 神社の減少

668社

9年間で消滅した神社の数

2015年の81,237社から2024年には80,569社へ。文化庁宗務課「宗教統計調査」より。

DATA 02 / 祭りの消滅

102件

休止・指定解除の祭り（31県）

都道府県指定の無形民俗文化財1,737件のうち。担い手不足が主因。毎日新聞 2024年調査。

DATA 03 / 地域からの期待

96%

「地域に祭りが必要」と回答

数は減っているが、地域からの必要性は揺るがない。NTT東日本「祭り・イベント関係者意識調査」2023年。

CONTEXT / 前提として

既存のものを 守ることすら、 難しい時代に。

この前提のうえで、私たちは「新しく神輿団体をつくる」という選択をしています。次のスライドで、その挑戦の難度をさらに掘ります。

これは簡単に できる挑戦じゃない

担ぎ手は減り、参加意欲も下がるなか、それでも次世代に渡したい想いだけは残っている。
この時代に、新しい神輿をつくり、新しい担ぎ手を集めるとは——
どれくらい難しいことなのか。具体的な数字で示します。



DATA 04 / 担ぎ手の高齢化

20代 → 60代

担ぎ手の平均年齢の変化（30年で）

かつて20代が中心だった担ぎ手も、いまや平均60歳に。神輿を一回り軽く新調する例も。日経新聞 2015年。

DATA 05 / 参加者の減少

1/2 以下

10年前との祭り参加者の比較

大分市・西新町天満社の例。コロナ禍を経て「祭り離れ」が定着。QRコード告知などの対策も。FNN 2025年。

DATA 06 / 次世代への期待

69.2%

「子どもに祭りに参加してほしい」

担ぎ手は減るが、次世代に渡したい想いは強い。一般社団法人マツリズム「祭に対する意識調査」2023年（全国20～60代800名）。

SO WHAT / だからこそ

**「新しくつくる」
ことの価値が、
かつてなく大きい。**

課題解決のためではない。私たちの想いと価値観を、神輿という形に乗せる。その挑戦が、難しい時代に成立してこそ、語るに足るものになる。

地域には、 “挑戦したくなる空気”が もっと必要だ。



ISSUE 01
若い世代が主役になれる場が少ない

ISSUE 02
地域文化の担い手が減っている

ISSUE 03
新しいことを始める人が少ない

ISSUE 04
挑戦を応援する文化がまだ弱い

ISSUE 05
事業者・職人・つくり手の力が見えにくい

ISSUE 06
「どうせ無理」が挑戦を止めてしまう

* 地域の課題は山ほどある。でも「やってみたい」から始まった挑戦が、結果的にこの空気を変えていく。

この地域に、 “自分たちも始めていい”と 思える空気を。

- 01 挑戦する人が増える
- 02 応援する人が増える
- 03 子どもたちが憧れる大人が増える
- 04 伝統と新しい文化が並び立つ
- 05 「自分たちの時代」を語れるものが残る
- 06 自分たちが生きていない未来にも、寄与する

次の100年は、誰かじゃなく、私たちが担ぐ。
その背中を見て、また次の誰かが担ぎ始める。



この地域で文化を **本気でつくる** 2社が共同代表

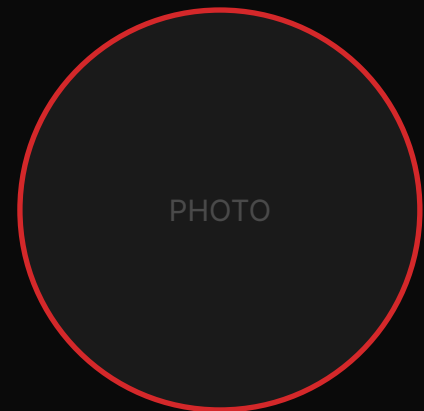
想いを、形にする。これは口で言うほど簡単じゃない。
日々この地域に根を張り、自分たちの事業で文化をつくり続けている2社だからこそ、
神輿という形に、想いを乗せられる。

CO-REP 01

村岡 将利

MURAOKA MASATOSHI

株式会社ビーコース 代表取締役
青森県十和田市 / 2016年創業



十和田を拠点に「やってみたい」を形にする会社。

東京でエンジニアを経て、地元・十和田にUターン創業。ブランディング・WEB制作・システム開発・DX支援を軸に、まちづくり事業や飲食店も運営。地域の挑戦の起点づくりに取り組む。

一二三會では企画・ブランディング・事業設計を担当。

ブランディング

クリエイティブ / WEB / システム / DX支援

ローカルメディア

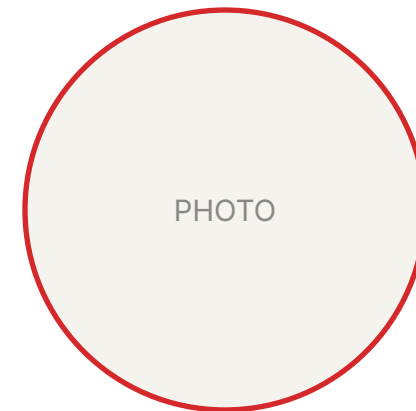
飲食店運営

CO-REP 02

渡部 良平

WATABE RYOHEI

株式会社WAA 代表取締役 / 一級建築士
青森県十和田市 / 2016年独立 - 2023年法人化



デザインを通して、暮らし・コミュニティ・地域を豊かにする。

東京から十和田へUターン移住。2012年創業の設計事務所を2023年に法人化。一級建築士として住宅・店舗・公共空間の設計を手がけながら、自社ギャラリー「東北のしごと / GALLERY WAA」を運営し、地域の作り手・職人の仕事を発信。

一二三會では神輿の設計・監修を担当。

建築設計

空間デザイン

ギャラリー運営

神輿は、**ただの物**じゃない

担ぐのは、**価値観と未来**。

でも、**想い**だけでは、**続かない**。

だから僕らは、この価値観と未来を、**神輿**という「**形として残るもの**」に具現化する。

形があるから、**歴史**になる。文化として、語り継がれていく。



LAYER 01 / FORM

形

目に見える神輿そのもの。確かな造形。



LAYER 02 / VALUE

価値観

挑戦、応援、温故知新。



LAYER 03 / SYSTEM

仕組み

続けるための事業・運営・お金。
100年残すための土台。

* この3層を束ねて形にしたとき、僕らの価値観と未来は、100年語り継がれる“歴史と文化”になる。

“自分たちの時代”を 語れるものを、つくる。

既存の神輿を守ることも、何より大切です。一二三會は既存文化を否定しません。
温故知新の心で、地域に「もう一つの選択肢」を増やす——それが新しく神輿をつくる意味です。



PHOTO: 一二三會の神輿（右）と伝統的なお神輿（左）が並ぶ。新旧が並び立つ、唯一の風景。

POINT 01

新しい神輿は、極めて珍しく挑戦的

既存を守るだけでも難しい時代。ゼロから神輿をつくる挑戦は、全国的にも貴重。

POINT 02

温故知新の心で、選択肢を増やす

既存を否定するのではなく、伝統への敬意の上に、地域の選択肢を一つ足す。

POINT 03

「俺たちの時代でつくった」と語れる誇り

自分たちの口で自慢できる、語れるものを残す。それが世代を超えて続く力になる。

POINT 04

新しいものが、古きものをさらに輝かせる

対比があってこそ、伝統の価値が際立つ。架け橋となる存在を、地域に。

制作物

神輿・法被・ロゴ・木札。
一つひとつを、地域のつくり手と本気で作っています。



01 / MIKOSHI

神輿

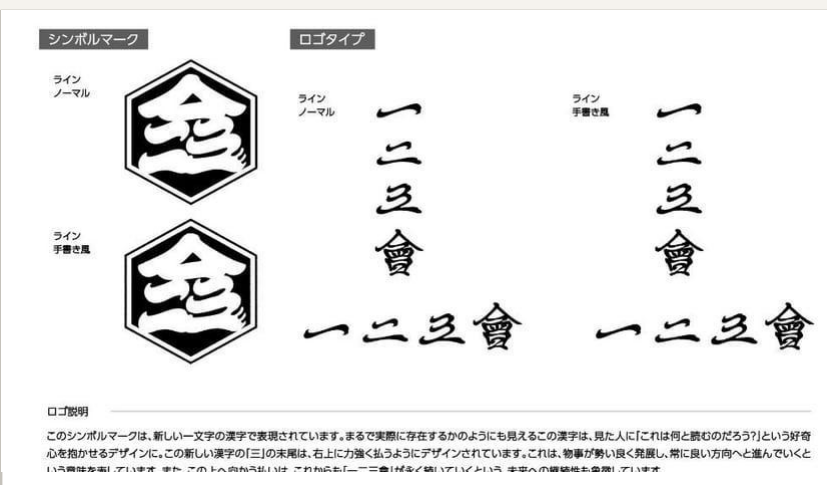
設計・監修：株式会社WAA
制作：有限会社松田工務店
企画・ブランディング：株式会社ビーコース



02 / HAPPI

法被

縫製：有限会社アクシス（オーダーメイド）
シルクスクリーン印刷：プロスクリーン



03 / LOGO

ロゴ

グラフィックデザイン：コトスキデザイン
法被・グッズ・SNS・展示に展開



04 / WOODEN TAG

木札

担ぎ手・関係者の証として、首から下げる印。一二三會の象徴。

神輿にかけた **想い**

100年先まで続く神輿は、一二三會という団体の成り立ちと親和性のある3つの想いを織り込み、伝統的な構成を再解釈してデザインされています。

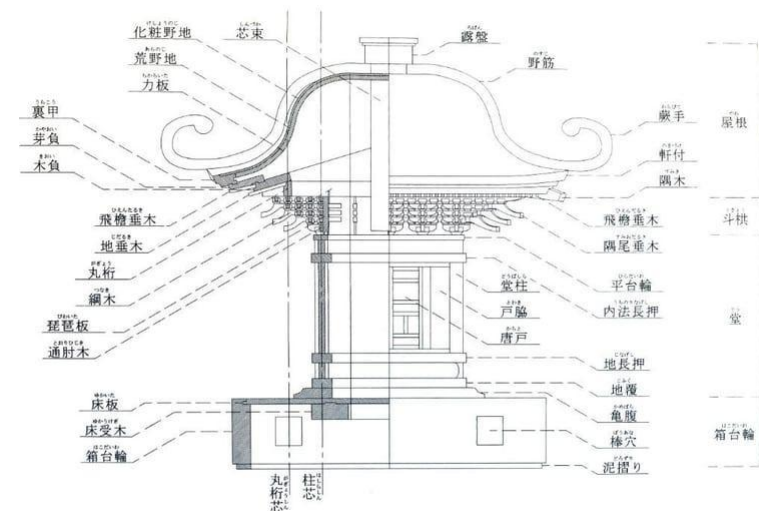
TRADITION → OUR INTERPRETATION

神輿の表現

TRADITIONAL

伝統的な神輿

屋根 / 斗拱 / 堂 / 箱台輪の4要素



HIFUMI-KAI

一二三會の神輿

屋根 / 斗拱 / 堂 / 箱台輪の**3要素**に再構成



01 / 屋根

黒い切妻屋根。神輿の象徴。

02 / 斗拱

45×60mm角材を積み上げた組木構造。一二三會の象徴的造形。

03 / 堂

神様を乗せる場所のため除外。

04 / 箱台輪

青森ヒバの土台。担ぎ手の手が触れる場所。

想い 01 / 温故知新

伝統を、この団体のために **再解釈する。**

伝統の4要素から「堂」を外し、3要素で構成。伝統への敬意を払いながら、自分たちの活動に合わせて再解釈したオリジナルの造形です。

想い 02 / 一二三、積み重ね

小さな材が集まって、一つになる。

45×60mmの角材を一本ずつ組み上げる造形は、数人の雑談から始まった団体の歩みそのもの。「一・二・三」という横棒の積み重ねでできた団体名とも重なります。

想い 03 / 地域の素材

青森を代表する、**青森ヒバ**でつくる。

神輿の主素材は青森県を代表する県産ヒバ。耐久性・美しい木目・独特の芳香を持つ青森の銘木で、他地域から担ぎに来てくれた仲間にも青森の香りが伝わります。

* 図版：伝統的な神輿の構成（参考） / 写真：一二三會の神輿（青森ヒバ／設計：株式会社WAA／制作：有限会社松田工務店）。

地域の仲間と、本気でつくる。

一二三會は単独で動いていません。地域の中にある“力”をつなげることで、新しい文化をつくっています。



企画・統括・運営

PARTNER 01

株式会社ビーコース

企画・ブランディング・事業設計

PARTNER 02

株式会社WAA

神輿の設計・制作

PARTNER 03

有限会社アクセス

法被の縫製・オーダーメイド

PARTNER 04

プロスクリーン

シルクスクリーン印刷・看板・のぼり

PARTNER 05

コトスキデザイン

ロゴ・グラフィック・世界観設計

PARTNER 06

有限会社松田工務店

神輿の制作・木工施工

PARTNER 07

刺繍家 夢郁 / Yui

法被の刺繍

PARTNER + / YOU?

これからの仲間

関わりしるは、これからも増えていく。

これまでの活動と歩み。



2025

団体設立

一二三會、青森県十和田市にて始動。コンセプト「100年のはじまりを担ぐ」策定。

2025

ロゴ・法被制作

コトスキデザイン／アクセス／プロスクリーンと協業。世界観を具現化。

2025

神輿設計・制作

WAA設計・松田工務店制作。組木構造による現代的な神輿が形に。

2025 秋

十和田秋祭り 参加

団体として初の祭り参加。担ぎ手と地域の反響を得る。

2026

太素祭 参加

十和田市の歴史的な祭典に参加。地域内での認知が広がる。

2026 ~

メディア露出 調整中

新聞社2社と調整。SNS発信も継続中 (@hifumi.kai)。



これから、**担いでいくもの**

SHORT-TERM / 短期

この1年で

- 自分たちが担げる神輿を運用する
- 担げる人・担ぎたい人を 集める
- 太素祭・十和田秋祭りへの継続参加
- 展示会・商店街展示・SNS発信
- 新聞・メディア掲載
- 活動継続のための支援・協力体制づくり

MID-LONG TERM / 中長期

100年に向けて

- 商店街店舗への常設展示
- 商業施設への展示
- 各種催事への参加
- グッズ開発
- 2号機・3号機制作
- 収益化・永続化の仕組みづくり
- 小中学校への展示
- 行政施設への展示
- 子ども神輿制作
- 記録映像・写真集・ZINE制作
- 地域間連携
- 新商品開発・地域間連携への投資

語るに足る、 ストーリーがある

神輿制作の過程、若者・子どもの参加、地域事業者連携、商店街展示、祭り参加——
一二三會の活動には、メディア化しやすい要素が揃っています。
協力企業も、活動報告・展示・SNS・メディアを通して、地域貢献ストーリーの一部として伝わります。



CH 01 / PRINT

新聞社 2社

すでに調整中。神輿制作・参加風景をローカルメディアで継続発信予定。

CH 02 / SNS

Instagram

@hifumi.kai にて公式アカウント運用中。ビジュアル中心に世界観を発信。

CH 03 / VIDEO

YouTube

担ぎ風景・制作過程・子どもたちの笑顔。動画化しやすい素材が豊富。

CH 04 / FUTURE

記録物・展示・ZINE

写真集・ZINE・常設展示。100年残る記録としてのアーカイブ化を構想中。

* 「協力したこと」が、地域貢献・文化継承・若者支援のストーリーとして社会に届く。



文化を、 本気でつくるため。

REASON 01

ただの遊びで終わらせない

大人の本気の遊びをやる。半端なものは作りたくない。本気でやるからこそ、対価と仕組みが必要になる。

REASON 02

続けるには、想いだけじゃ足りない

神輿制作・参加・展示・記録・発信・維持管理。継続には資源が要る。お金をかけ、お金を稼ぐから本気になれる。

REASON 03

支援は寄付ではない

未来の文化を、一緒につくる行為。支援者の名は「一緒に100年のはじまりを担いだ仲間」として、地域と歴史に刻まれる。

支援は、こんな場所で活かします

具体的な協賛メニュー・金額は別途「協賛提案資料」にてご案内します。
ここでは、いただいたお力がどのような領域で生きるかをお示しします。

AREA 01 / PRODUCTION

制作の力に。

- ▶神輿制作
- ▶法被制作
- ▶グッズ制作
- ▶印刷物・のぼり・看板等の制作
- ▶子ども神輿制作
- ▶2号機・3号機の制作

AREA 02 / OPERATIONS

続ける力に。

- ▶イベント参加・運営
- ▶展示・保管・搬送・維持管理
- ▶メンテナンス
- ▶学校・商業施設・行政施設での展示
- ▶担ぎ手募集・育成
- ▶地域間連携への投資

AREA 03 / STORYTELLING

伝える力に。

- ▶広告・メディア
- ▶記録制作（映像・写真集・ZINE）
- ▶SNS発信・コンテンツ制作
- ▶新商品開発
- ▶常設展示・アーカイブ化
- ▶地域内外への文化発信



次の100年のはじまりは、
誰かじゃなく、
私たちが担いでいく。

一緒に、100年のはじまりをつくっていきましょう

具体的な協賛メニュー・支援内容は、別途「協賛提案資料」にてご案内いたします。